

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	あまだ翠光園	施設種別	施設入所支援・生活介護・短期入所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

令和 7 年 10 月 17 日

総 評

あまだ翠光園は、福知山市を中心に多様な福祉事業を展開する社会福祉法人福知山学園が運営する入所施設です。自閉症や行動障害のある方に対する支援に長年取り組んできた実績があり、特に強度行動障がいのある方への支援に関しては、2004年に設置された専門支援グループ「太陽系」を中心に、きめ細かな観察と支援を継続的に実施しています。このような積み重ねにより、利用者一人ひとりが落ち着いて生活できる環境が整えられてきています。

施設では、利用者の生活の質の向上と職員の支援力の向上を両立させるために、個別支援を重視し、利用者理解を深めるための日々の実践に職員全員が取り組んでいます。自閉症や行動障害のある方を対象とした入所・短期入所のニーズが高いことは、これまでの支援の成果が地域に評価されている証といえます。働き方改革についても積極的に取り組んでおり、勤怠管理システム「キングオブタイム」の導入によって、全職員の勤務状況がリアルタイムで把握できるようになり、定時退勤の定着や有給休暇取得率の向上（80％以上）といった成果が見られます。また、人事面では外部コンサルタントの導入により、旧来の慣習を見直し、第三者の視点からの制度改善が進められました。これにより、職員の働き方に対する意識が変化し、組織内でのフィードバックの方法や指導の質にも変化が生まれています。

一方で、利用者の高齢化や重度化が進む中での人員不足は大きな課題です。現在は、現場のリーダーと連携しながら職員配置の見直しを進め、特に男性利用者が多数を占める状況に応じた体制整備が図られています。

運営面では、会議の在り方を見直し、複数の会議を1日に集約するなどして業務の効率化を図るとともに、現場や専門職による小規模なミーティングの導入によって、実践的かつ柔軟な情報共有体制を構築しています。これらの改革はまだ始まったばかりであり、今後の成果の検証が期待されます。

また、利用者によく見られる高次脳機能障害に対応するため、施設の修繕や環境面の見直しも進められており、ハード面の整備にも力を入れていることが特徴です。

今後も地域と連携しながら、より質の高い支援体制の構築が期待されます。

特に良かった点(※)	I－2－(1)－①② 法人の理念や方針はホームページに明文化されているだけでなく、朝礼・夕礼での唱和、各部屋への掲示といった日常的な活動を通じて職員に浸透しています。また、職員が持ち回りで理念の一文を選び、法人内のコミュニケーションツールで自身の考えとともに発信する取り組みも行われており、理念への理解と共感を深める仕組みが整えられています。これは、職員一人ひとりが法人の方針を自分ごととして捉え、実践につなげていく文化の醸成につながっており、高く評価されます。 I－3－(1)－①② I－3－(2)－①② 中長期計画や単年度計画は職員を巻き込んだ形で策定されており、現場の意見を反映した実効性のある内容となっています。加えて、Googleドライブなどのクラウドツールを活用して会議録や規程類を全職員が閲覧可能な状態にし、情報の透明性と共有性を高めている点も特筆されます。これにより、計画や方針が一部の管理職のみで閉じることなく、全職員が主体的に関わる施設運営が実現されています。 II－2－(3)－② ICTの導入により、全職員の勤務状況がリアルタイムで把握可能となり、有給取得率の向上や時間外労働の抑制といった働き方の改善が進められています。さらに、人事評価や目標管理制度が整備され、キャリアパスや給与体系も明文化されていることから、職員が安心して長期的に働きながら成長できる体制が整っています。外部講師による研修、研修履歴の見える化、書籍の配置など、自己学習の支援も充実しており、職員の専門性向上とモチベーション維持に大きく寄与しています。
特に改善が望まれる点(※)	II－4－(1)－①② II－4－(2)－① II－4－(3)－① 地域との交流や地域貢献について、地域連携推進会議の設置や、訪問販売・キッチンカーの招致、福知山ちいきマップの活用など、利用者と地域をつなぐ取り組みが実施されています。また、福祉避難所としての役割や、地域の関係団体との協議・連携も積極的に行われており、地域とのつながりを意識した施設運営がなされています。 しかしながら、地域連携に関する具体的な取り組み内容が文書として明文化されていない点が課題となっています。 また、地域ボランティアの受け入れについては、「インターンシップ受け入れマニュアル」に一部記載があるものの、ボランティア受け入れ専用の体制やマニュアル、職員向けの研修は未整備です。今後は受け入れに必要な体制整備、役割分担、リスク対応等を明確にし、職員が安心して受け入れ対応ができる仕

組みの構築が求められます。

さらに、地域との交流は法人全体の課題として認識されているものの、日常的かつ継続的に地域住民や地域資源とつながる具体的な活動や交流の場の創出については、今後の取り組みが期待されます。インターンシップの学生による地域と福祉をつなぐ企画は、地域交流の好事例であり、今後はこのような取り組みを組織的に発展・継続させていくことが期待されます。

Ⅲ－１－（２）－③

利用者に不利益が生じないよう、性別ごとのサマリーを作成し、支援における配慮が行われている点は評価できます。一方で、他事業所や家庭への移行に関する明確な手順や引継ぎ文書が整備されていないことは、支援の継続性という観点から課題といえます。

現在の体制では、利用者が新たな生活環境へ移行する際に、支援情報や生活の様子、配慮点などが体系的に共有されにくく、受け入れ先での適切な対応や継続的な支援に支障を来す可能性があります。利用者にとって環境の変化は大きなストレスとなり得るため、引継ぎ時の支援の質を保つことは非常に重要です。そのため、今後は移行に関する標準的な手順や、必要な情報を網羅した引継ぎ書式の整備が求められます。

Ⅲ－２－（２）－①②

個別支援計画の策定においては、副施設長が責任者として利用者や家族のニーズを的確に把握し、計画へ反映する体制が整っており、関係職員への周知もケアカルテを通じて実施されています。また、計画に基づいたサービスの実施状況も定期的に確認されており、必要に応じた見直しが適切に行われているなど、運用面の基盤は確立されています。

一方で、利用者本人の意向把握および同意取得についての取り組みは、支援の質をさらに高めるうえでの課題となっています。今後は計画見直しの場に利用者本人が可能な限り参加できるような仕組みを整備し、本人の意向を丁寧に確認・反映する体制の構築が求められます。

また、本人が参加することが難しい場合でも、意思表示の方法に応じた代替手段（絵カード・写真・職員による聞き取り等）を用いることで、本人の意向を引き出す工夫が必要です。同意取得についても、計画内容をわかりやすく伝える資料の工夫や説明の仕方に配慮し、形式的ではなく実質的な合意形成を目指す取り組みが望まれます。

※それぞれ内容を３点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

〔様式9-2〕

【障害事業所版】 評価結果対比シート

受診施設名	あまだ翠光園
施設種別	施設入所支援・生活介護・短期入所支援
評価機関名	特定非営利活動法人きょうと福祉ネットワーク一期一会
訪問調査日	令和7年2月28日